

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	特定医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホームゆりかもめ	ユニット名	つばめユニット
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4丁目5-14		
自己評価作成日	令和6年度11月20日	評価結果市町村受理日	令和7年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topijvosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である病院と連携し、利用者様の心身の状態をケア記録や会話、入浴時、バイタルチェック等から観察し、受診が必要な時はその都度医療に繋いでいる。日常生活の中に在宅と同じ様な、野菜の皮剥きや洗濯物干し、畳み、茶碗洗い等のいろいろな作業をしていただき、施設の中で利用者様の役割をつくり、利用者様がここに居てもいいんだと思っていただける様な、安心して過ごしていただける施設づくりをしている。1ユニットには畑を作り、土を耕す、管理し収穫し、その野菜を食事に使用する等している。職員の教育に関しても、認知症、高齢者虐待、身体拘束、サービス向上の研修や勉強会に積極的に参加させている。また、障害者雇用も受けて入れており、障害者の方がもっと働きやすい職場を増やせる様に職員の教育を取り入れている。地域貢献としては利用者様と一緒に近くのスーパーを利用し買い物支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム(3ユニット)は、川辺りに立地し近隣には多数の商業施設があり、利便性に恵まれた環境にある。利用者は地域の方が多く各ユニット間を自由に行き来することにより知人や友人に出会える場になっている。特に運営推進委員会に於いては地域民生委員3名の参加があり助言や支援を受け地域密着型施設としての役割を担っている。又、医療と連携して運営されており急変時や重度化には適切な対応が期待できるため利用者・家族ともに安心して生活をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体が理念を念頭に入れた上で、利用者様との対応を正確に実践している。		3ユニット共に同じ理念の下、職員は利用者や家族がホームを利用して本当に良かったと思ってもらえるように各ユニットそれぞれ目標を決めてケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を行った上で面会や外出をしている。帰所後声掛けにより手洗い、手指消毒をしている。		近くのスーパーへの買い物や川辺りの散歩又ゴミ出しなど職員と一緒に知り人や友人、地域の方々と出会う機会を支援し、地域との関わりを持つ努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で民生員や役場、包括支援センターの方を招き、施設の現状報告をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の話し合いの中で出た意見を職員に周知し、各ユニットで話しあい、実践に繋げている。		ホームの現状報告や利用者の状況を報告している。その中で意見や提案を受けサービス向上に繋げている。最近の会議で傾聴ボランティア訪問の提案を受け検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当と常に連絡をとりあい、問題があればすぐに対応できる様取り組んでいる。		運営推進会議以外でも日常生活において必要に応じ相談できる良好な協力関係を築いている。又、行政に於いても事例等相談を受ける時もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束をしない介護を実践している。状況に応じて、非代替性、一時性、切迫性の拘束を理解している。		身体拘束等適正委員会での議事録は全職員へ周知する仕組みとなっており、身体拘束の弊害について正しく理解し拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様を尊重し、傾聴、需要の姿勢を忘れずにケアをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を希望されている利用者様がおられる為、その方に入居者様の状態を常に報告、話し合い協力していただいて支援に繋げている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様と電話や帰所していただいて、話し合いを設け、その都度対応し理解を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が電話や面会時に意見や希望、苦情を言われた際は、早急に職員に周知し問題解決に努めている。	面会や電話対応時、意見や要望を引き出す努力をしている。出された意見や要望は運営に生かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、施設長、管理者、ケアマネ、3ユニットリーダーで業務改善、質の向上に対しての会議を行っている。また必要時にその都度会議を行う様に努めている。	毎月開催される会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。提案された意見や要望は反映されているところもあるが十分に把握しきれない可能性もある。	今後は十分に把握しきれない意見や要望を洗い直し検討し、職員に周知し生き生きと働き続けられる環境整備の工夫を期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体が病院の為、施設の状況はその都度、施設長、管理者が伝えているが、改善は見られない。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナが終息し、院外内の研修に参加できる様に努め、質の向上に繋げている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は出来ていない。今後は介護の質の向上を目指す為研修等を受けていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	感染症も収束しているが、同業者との交流の機会は少ない為、職員同士勉強会などを取り組んでいる			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や意見を傾聴し、職員間で話し合い、情報を共有し早急な対応に繋げる様努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族の要望を傾聴し、専門職に意見を聞き、対応の仕方を考えケアに繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との毎日の生活の中で、一緒に何かを行う事で、良い関係性を築く事にも努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行の施設だよりと個々の近況をご家族様にお伝えし、状況に応じてのご家族様のご協力をいただき、共に支える関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間制限はあるが、居室での面会が出来る様になっている為、ご家族様やお知り合いの方とも会話を楽しんでいただける様努めている。	利用者は地域の方々であり、買い物や散歩を支援し知人や友人に出会う機会を作っている。外泊も取り入れ今正月に向けて外泊の予定の利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション実施の際は、皆様が一緒に楽しんでもらえる様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様やご家族様からの要望があれば、その都度対応し、相談や支援に応じられる様に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議や日常の会話、本人様の希望を聞いて対応しているが、困難な場合は本人様との話し合い意向に添える様努めている。		散歩や買い物の要望があれば利便性の良さを生かし対応している。意思疎通困難な方には仕草や声掛けで汲み取り把握している。外泊され墓参りされた事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で情報を共有し、支援及びサービスの向上に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、利用者様の現状を把握し対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や看護師、ケアマネ等を含めて、話しあい必要な計画を作成し支援を行っている。		本人や家族の意向・要望を採り入れ又、日々の記録や職員や関係者の意見やアイデアを反映した現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って支援を行い、また定期的にユニット間でも話し合いを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者様に合わせて必要な支援を行うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の生活のペースに合わせて穏やかに過ごしていただける様に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診時は看護師が付き添い、利用者様の意思も言っていたき対応している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に他職種と連携をとり、利用者様の支援に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携し情報交換等をして相談しながら関係づくりをしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しご家族様に了承していただき契約をしている。変更があれば、その都度言っていたき様にしている。		重要事項説明書で重度化や終末期について説明を行っている。管理者は、今後は終末期に於いて職員の教育や研修を取り入れ体制を整え対応したい方針を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時は母体の病院に連絡にて、主治医に指示に従い、職員も対応できる様にしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害で避難しないとイケない場合は、避難マニュアルに沿って病院に避難する様になっている。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個々に合わせた声掛けを行い、尊厳を損ねない様に努力している。	馴れ合いにならないように、特に声掛けには留意している。誇りやプライバシーを損ねないように職員間でお互いに注意しあい改善に向けてホーム全体で取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いを聞いたり、希望があれば自己決定出来る様に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合わせて、体調にも気をつけながら思いに沿った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から利用者様の好みを理解し、本人様の希望も尊重し自己決定ができる様に促している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会やイベント事の時は、季節の食材を使用し、食事を提供している。時には近くのお寿司屋さんからお寿司を注文し提供する事もある。食事の用意は野菜の皮剥きや茶碗洗いを利用者様にしてもらっている。	漁港が近く、魚の開きの干し物をリクエストされる時もあり対応している。本日昼食のシチューのメニューでは、パンかご飯かの選択制にし食事が楽しいものになるように工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合わせて食事量や栄養バランスを考えメニュー等を考え、1日の水分量も考え飲用促している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助したり歯間ブラシを使用し、1人1人の口腔状態に合わせて対応している。自立している方にも声掛けする。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を見て声掛けを行う。		身体機能に応じ介助や見守りを行いトイレでの自立に向けた支援をしている。排泄ケア商品に於いても利用者・家族の経済的負担を考慮し購入先を検討する時がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認し牛乳摂取促したり、本人希望時の下剤服用支援する。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間に決まりがあるが利用者様を急がせる事はず、本人様に声掛けしながら状態をみて対応している。		日曜日以外毎日入浴は実施しており、入浴拒否される方には無理強いせずその人に合わせた支援をしている。入浴対応時の職員の性別や使用するシャンプーに於いても一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に合わせた時間や状況に応じて休憩を促したりする。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理をし変更があれば職員に申し送りして、申し送りノートに記載にて職員に周知する。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎に塗り絵を用意したり、折り紙を一緒に折ったり、時にはゲームを手作りし支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば可能な限り対応し、状況によってはご家族に連絡して外出支援している。		ホームの立地の利便性から買い物や川辺りの散歩を日常的に支援している。最近では利用者の馴染み深い日向灘を一望できる牧山へのドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人の財布(お小遣い)は施設が管理しているが、希望があればその都度使える様にしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をお渡ししており、直ぐに電話ができる様に対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に気を配り「寒い」等の声があればその都度対応している。	各ユニットは掃除が行き届き清潔に保たれている。日向ぼっこや休憩ができるように廊下には椅子を置き、壁には利用者と職員が作成した季節感のある作品が飾られている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の座席は性格や会話の弾み具合をみて考えている。廊下の椅子にて読書をされている方もいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活に馴染みのある物使えるように話し合っている。	からくりタンスやパソコン・テレビなどが持ち込まれ使いやすいように工夫して設置されている。利用者それぞれ馴染みの物を生かした個性あふれる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望や体調にあった運動を取れいれ、自立した生活の維持を支援している。			